

## 事例Ⅳ－１ ドローンを活用した山地災害時情報収集訓練の実施

四国森林管理局は、民有林支援の一環として、嶺北森林管理署や高知県内の4町村（大豊町、本山町、土佐町、大川村）、愛媛森林管理署や愛媛県内の3市町（西条市、松野町、久万高原町）との合同で、ドローンを活用した山地災害時の情報収集訓練を令和7（2025）年10月に実施した。

訓練は、集中豪雨や大規模林野火災等による山地災害に際し、市町村と森林管理局・森林管理署が連携して、ドローンの活用により被害状況等を迅速かつ円滑に把握できるよう、知識・技能の習得及び関係者間の共通認識の醸成を図る目的で実施された。

訓練当日は、低軌道衛星による高速通信システムの活用により、携帯電話がつかない山間部を含む高知県大豊町及び愛媛県西条市の民有林の現場においてドローンで空撮した映像を、森林管理局や各市町村等の庁舎にリアルタイムで配信した。森林管理局、大豊町及び西条市の担当者は、配信された映像を見ながら、現場のドローン操作者に対して撮影箇所に関する指示を行った。さらに、大容量ファイル転送システムにより、空撮した映像データ等の成果物を、現場と庁舎との間で迅速に送受信する訓練等も併せて実施した。

参加した市町村からは、「航空写真や地上からでは被害の全容把握が難しかったような箇所も、ドローンであればよく見えることが分かった。実際の山地災害発生時にも是非、森林管理署等の協力をお願いしたい」「平時から訓練や森林管理署等との連携を重ね、山地災害の発生時にその成果を活かせるようにしたい」「緊急時の迅速な情報収集につながるよう、この訓練が定期的実施されることを希望する」などの声があった。

四国森林管理局では、今後もこのような取組を通じて、山地災害発生時の迅速な情報収集や、地方公共団体と連携した対応を図っていくこととしている。



現地でのドローン飛行  
(高知県大豊町)



ドローンからの配信映像

### (路網整備の推進)

国有林野事業では、機能類型に応じた適切な森林の整備・保全や林産物の供給等を効率的に行うため、自然条件や作業システム等に応じて林道及び森林作業道を適切に組み合わせた路網の整備を進めている。また、効率的な路網整備に向け、情報通信技術(ICT)を活用